

総合計画審議会委員からの意見等一覧(総括審議分)

1 計画全体

- 全体を通じて、活動指標を設定しようとしているのか、成果指標を設定しようとしているのか整理できていない。
- 新たな指標をさらに開発するというのは難しいが、時間をかけて検討していただく必要がある。市民の実感の部分をしっかりと把握していただくということをお願いしたい。

2 基本計画

重点テーマと取組の方向性

- 冒頭のリードの部分について、総合計画なので「オール市役所」としてある意味当たり前の話の中で、「庁内部局の横断的」取組というのが市民との連携より前に出てくるといのが、若干違和感がある。ここの表現は、無くても良いのではないか。

(3) 地域コミュニティモデルの進化

- 「地域コミュニティとして取り組むべき課題領域」の「領域」は、ある程度線引きをする必要があるのでないか。

(4) いのちを育て・守り・支える

- 小田原は「森里川海オールインワン」という魅力があると思うが、裏を返せば災害が起こる可能性があり、それを防ぐことは難しいと考えている。「(4) いのちを育て・守り・支える」という中や、重点テーマの中で、災害への対応ということも含めていただくと非常に良いのかなと考える。さらに、「(3) 地域コミュニティモデルの進化」という、もし災害が起こった時にどういう風に動けばいいのか、どのような対策が取れるのかということも含めて、テーマの中に含めると、市民の方々としては非常に安心だと思うが、いかがか。

(5) 「分かち合いの社会」の創造

- 市民にとっては目新しい言葉で、これだけの説明文では理解がしにくいと思う。この「分かち合いの社会」の創造がなぜ必要と思ったのか」という、テーマの背景になるものが記述されていない。いわゆる政策の背後にある哲学的なものが、この記述に抜けている。「誰が目指すのか」という主語も無いので、記述をもう少し市民に分かるようにすべきではないか。

(7) 重要なまちづくり案件の適切な実現

- 「規模の大きな土地利用・再開発・施設整備などの案件について、全市的なまちづくり

の方針との整合性や」という記述がされているが、「全市的なまちづくりの方針」というのは、何を示しているのか。もう少し説明と情報をいただくと、市民としても何を基準にそれぞれの案件が判断されて進んでいるのかというのが分かりやすくなると思うので、配慮いただきたい。

いのちを大切にす小田原

福祉・医療

1 地域福祉の推進

- ケアタウンの推進事業、地域福祉活動の充実、地域コミュニティ推進事業、この3つの事業を整理統合し、市民力を十分に生かして、これからの社会的な課題を乗り切っていくという市の姿勢が必要ではないか。後期基本計画の中では、各取組をさらに精査・整理統合し、一つの大きな施策として引っ張っていくべきではないかなという風に考える。
- これからの超高齢社会・少子化社会の課題を、後期基本計画の中でしっかりと解決をしていくという方向性を示していただきたい。

子育て・教育

11 子育て環境の充実

- 子どもを産み、育てるところを充実していくには、保育園とか幼児教育の質をしっかりあげていくということと、何か問題が起こった時に安心して相談ができて、子どものためにどうしていったらいいかということがみんなで考えられるような支援を目指していく、ということが大事なのではないか。
- 切れ目のない継続した支援が実現していくということが、小田原の中で安心して子育てができていくということにつながっていくのではないかなという風に考えている。「支援センターができた」とか「コミュニティをつくっていく」というより、保育園、幼稚園の中身を充実していく、学校現場の中身を充実していくところを抜き出していきたい。
- 就学前から就学後、あるいは就学した後、地域に出ていくところまでの切れ目のない支援体制と、専門家の目、第三者の目を保育園、幼稚園、学校教育の中に入れていって、専門家の視点を入れながら、先生方が一人で抱え込むのではなくて教育保育ができていくということについてもお願いしたい。そのための心理専門職の配置、福祉のソーシャルワーカーとの連携、庁内のできる支援、あるいは専門家が必要な支援ということについてもお願いしたい。

希望と活力あふれる小田原

地域経済

17 観光まちづくりの推進

- 基本方針で「小田原市観光戦略ビジョンに基づき、」という言葉があるが、例えばフリーWi-Fiの整備等を含めたインバウンド対策、シティプロモーション、メディア戦略、三の丸地区の全体の整備計画など、観光戦略部ジョンの達成に向けて、そういった部分をもう少し強調していくべきなのではないか。
- 小田原を訪れる外国の方たちが、どのあたりをどういう風に見て回っているのか、把握はされているのか。小田原をしっかり巡って、楽しんでいただけるような導線をきちんと検討し、小田原の経済にも貢献していただけるような、もう少し戦略的なアプローチが必要なのではないか。

18 農林業の振興

19 水産業の振興

- 農産物のブランド化、魚のブランド化など、いわゆる小田原市としてのブランド力の向上ということだと思うが、何か一つのターゲットを定めたブランド化というのが有効なのではないか。

歴史・文化

23 生涯スポーツの振興

- 「基本方針」の「誰もがスポーツに親しめる」という中には障がい者も含むという回答をいただいたが、どうしても健常者の主体的なものの考え方、環境づくりのように捉えてしまう。詳細施策の中に、一項目でもいいから「障がい者スポーツ」というものを取り入れるのはどうか。
- 全体の話にもなるが、特に「23 生涯スポーツの振興」で、ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピックなど、時代性をもう少し反映した方が良いのではないか。「そこに向けて、市としても調整しながらやっていきます」というところが、詳細施策の中にも入ってきた方が分かりやすいのではないか。また、それを行うときに民間の力を活用して、一緒になってやらなければいけないなと思っている。市の最大の特徴としては市民と協働でという視点が貫かれているが、全世界の人々の力を活用するだとか、企業の力を活用するとか、色々な形で行政だけでなくパフォーマンスができてくるのではないか。

豊かな生活基盤のある小田原

自然環境

24 環境再生・保全活動の推進

- 小田原の魅力を端的に表すスローガンというのは、「森里川海オールインワンの小田原」である。そのスローガンが出てくるのが58ページになるが、この言葉を後期計画全体に

共通する概念として、もう少し前面に出せないか。

都市基盤

29 安全で円滑な地域交通の充実

- 高齢化が進む中で、バスなどの公共機関をもっと使ってもらうように啓発していかねければいけないのではないか。

30 安定した水供給と適正な下水処理

- 管路の耐震化の目標値が掲げられているが、ライフラインということで災害への対応とも想定し、目標値をもう少し伸ばすような方向で取り組めないのか。会計上の問題だけでなく、上下水道の耐震化は、もう少し積極的に、市としての姿勢が必要ではないか。
- 小田原市の場合、神奈川県の中でも耐震化率がそれほど低くなかったと思うが、やはり優先順位を決めて、人が多いところから取り組んでいただきたい。

市民が主役の小田原

市民自治・地域経営

31 協働による地域経営

- 「市民と行政が対等な立場で」というこの表現は、一般的には「尊重する」とか「立場の違いを理解したうえで対等に協力する」というのが必要で、それが本来の協働あるいはパートナーシップだと思う。そういう表現がどこかに書き加えられないのか。

34 自立した行財政運営の推進

- 地方分権というのは与えられた権限を自治体はどう使うかであり、使えなければ意味が無い。ただ権限、機能強化だけではなくて、「しっかり使っていく」ということをここでは言わないといけないのではないか。それが「35 自ら考えて行動する職員の育成」につながると思う。

35 自ら考え行動する市職員の育成

- 記述に入るかどうかは別として、人材難の中で、職員を市民協働型の職員として鍛えていくことも必要だと思う。

36 広域行政の推進

- 広域行政は、近隣自治体だけに限定する必要はないのではないか。2 地域居住や、土日は小田原で暮らし、平日は都内で暮らすといった市民の生活があってもいいのではないか。そういうことも含めた、もう少し広域というのは考えられないか。